

|         |       |          |                                  |
|---------|-------|----------|----------------------------------|
| 生徒指導論   | 2年・後期 | 2単位 30時間 | 教授 平沢信康                          |
| 科目カテゴリー | 教職科目  | 科目ナンバリング | 37011322<br>37011282 (2023年度生以降) |

### 1. 授業のねらい・概要

生徒指導は、教育課程や時間割の中には位置付けられていないものの、重要な役割を学校において発揮している。生徒指導の課題は、児童生徒の風紀チェックあるいは非行少年の矯正にとどまらない。受講学生は、児童生徒一人一人の「生きる力」を育み、望ましい人間形成を促す上で重要な役割を果たす生徒指導の意義を知り、生徒指導が対処すべき領域と諸課題、指導方法、指導体制および関連組織/団体について理解する。あわせて生徒の抱える問題行動について考察しつつ、生活指導に関する教育福祉的なマインドを養うことを目的とする。

### 2. 学修の到達目標

1. 「生徒指導」と「生活指導」の語義の異同および成立史と守備範囲について説明できる。(D-1)
2. 中学校に生徒指導主事を置く規定を、学校教育法施行規則第70条を根拠に示すことができる。(D-1)
3. スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーとの違いを理解できる。(D-5)
4. 日本スポーツ振興センターに集約されている学校事故データベースを用いて、学校事故について様々な条件で検索できる。(D-1)
5. 戦後日本社会における非行件数や全刑法犯に占める少年犯罪の割合について、統計上の傾向を概略解釈できる。(D-1)
6. 薬物乱用の統計グラフを検索して示すことができる。(D-1)
7. 子供の睡眠時間について統計データを検索して調べ、最近の減少傾向を指摘できる。(D-1)
8. 不登校児童生徒数の直近データを調べ、最近の増加傾向を指摘できる。(D-1)
9. 児童自立支援施設について検索し、国立、私立、公立ごとに施設数を概ね示すことができ、出身都道府県内の位置と名称をも示すことができる。(D-1)
10. 私立の児童自立支援施設である「北海道家庭学校」を創設した感化事業のパイオニアについて名前(留岡幸助)と略歴を述べることができる。(D-1)
11. 地元の都道府県にある児童養護施設について示すことができる。(D-1)
12. 児童生徒による校内暴力の統計データを調べ、示すことができる。(D-1)
13. 義務教育段階の出席停止制度について解説できる。(D-1)
14. パーソンセンタードアプローチを提唱した米国カウンセリング界の巨人の名前を挙げるができる。(D-1)
15. 2023年4月1日に創設された「こども家庭庁」の職務内容について、概ね説明できる。(D-1)

### 3. 授業の進め方

基本的には、講義要旨(レジュメ)をもとに音読しつつ講義形式で進めるが、適宜インターネットを活用する。具体的には受講学生の所有するスマホを活用し、語義や法律の条文、人物の経歴、統計データや画像資料などを検索して確認して理解を深めつつ進める。

#### 【アクティブ・ラーニング実施 有】

アクティブ・ラーニングとして、事前学習型授業、小テスト・レポートを用いる。

講義要旨を予習中に意味の分からない字句や未知の人物について調べる事前学習を行い、各種最新統計データ等を検索する調査学習も課す。また、生徒指導に対して受講者が抱いている課題意識や被教育体験につきリフレクションして表現し、全員で意見交換・体験発表などシェアし合う機会も随時設け、対話・議論型授業へと展開する場合もある。

#### 【ICT活用 有】

ICTを活用して講義要旨（レジュメ）を事前配信し、学習課題や学習教材を提示・配信する。また、講義終了後に感想文及び学習課題をGメールで翌日までに提出せしめる。

#### 4. 授業計画（講義）

| 回 | 授業内容                                  | 授業形態 | 事前事後学修（学修課題）  | 担当   |
|---|---------------------------------------|------|---|------|
| 1 | 「生徒指導」と「生活指導」<br>— 語義の異同と歴史           | 講義   | 予習：「生徒指導」と「生活指導」の意味を複数の辞書で調べてくる。<br>復習：それぞれの意味と使用されてきた歴史と使用範囲・文脈を理解する。              | 平沢信康 |
| 2 | 児童生徒の安全・安心を求めて<br>— 様々な危険から子供を守る—     | 演習   | 予習：学校保健安全法を読んてくる。<br>復習：(独立法人)日本スポーツ振興センターに集約されている学校事故データベースを読む。                    | 平沢   |
| 3 | 少年非行/犯罪と生徒指導<br>— 青少年の健全育成をめざして       | 講義   | 予習：戦後日本社会における非行件数の統計データの変遷を調べてくる。<br>復習：全刑法犯に占める少年犯罪の割合を調べる。                        | 平沢   |
| 4 | 喫煙・薬物乱用防止教育と生徒指導<br>— 深夜徘徊に対応する街頭補導   | 講義   | 予習：わが国でタバコが原因での死者数を調べる。<br>復習：薬物乱用の統計グラフを確認する。                                      | 平沢   |
| 5 | 生徒指導とカウンセリング<br>— 児童生徒の苦悩と不安や寂しさに寄り添う | 講義   | 予習：家出、自殺、いじめ、児童虐待についてデータを調べる。<br>復習：スクールカウンセラーの配置校数を調べる。                            | 平沢   |
| 6 | 児童生徒の心身の健康づくり<br>— 生徒指導としての保健指導課題     | 講義   | 予習：保健室登校者のいる学校数を調べる。<br>復習：視力低下、アレルギー疾患、ぜんそく、クラミジア等の罹患者数を調べる。                       | 平沢   |
| 7 | 規則正しい生活習慣の確立と生徒指導                     | 講義   | 予習：子供の睡眠時間についての統計データを調べる。<br>復習：日本睡眠学会、日本臨床睡眠医学会、睡眠健康大学、日本睡眠教育機構、睡眠教育研究会などのHPを見てみる。 | 平沢   |

|    |   |    |   |    |
|----|---|----|---|----|
| 8  | 不登校（登校拒否）・引きこもり                           | 講義 | 予習：不登校児童生徒数の直近データを調べる。<br>復習：引きこもりの統計データおよび報道事件例を調べる。                     | 平沢 |
| 9  | 「社会力」の育成と生徒指導<br>—奉仕体験活動・ボランティア活動—        | 講義 | 予習：ニートに関する最新データを調べる。<br>復習：中学校における就業体験やボランティア活動の振り返り。                     | 平沢 |
| 10 | 社会福祉と生徒指導<br>—格差社会における貧困問題<br>高等学校中途退学    | 講義 | 予習：現代日本の貧困率と生活保護受給世帯の母子家庭数を調べる。<br>復習：給食費や高校教育の無償化など、各政党の政策を調べてみる。        | 平沢 |
| 11 | 教育福祉と生徒指導<br>—孤立・無縁・虐待から児童生徒を守る           | 講義 | 予習：地元にある放課後児童クラブについて調べる。<br>復習：出身自治体における就学援助率を調べる                         | 平沢 |
| 12 | 生徒指導にかかわる関係諸機関<br>地域の支援組織と施設・団体           | 講義 | 予習：児童相談所の全国相談受付総数を調べる。<br>復習：出身地にある児童養護施設および児童自立支援施設について場所や収容者数を調べる。      | 平沢 |
| 12 | 学校の内外における児童生徒の暴力及びいじめ問題への対応               | 講義 | 予習：直近の児童生徒による暴力の統計データを調べる。身近な具体例を想起する。<br>復習：小学生の暴力行為件数と補導された人数を調べる。      | 平沢 |
| 14 | 学校における規律形成と生徒指導<br>—教室と学校の荒廃に抗して          | 講義 | 予習：身近な荒廃した学校やいじめの報道事例を調べる。<br>復習：近年における出席停止の発動件数（率）を調べる。                  | 平沢 |
| 15 | ICT普及に伴う新しい指導課題<br>—情報化社会・ネットワーク社会のはらむ諸問題 | 講義 | 予習：SNSの発達に伴う病理にどのようなものがあるか、調べてくる。<br>復習：ネットを利用したハラスメント、人権侵害、犯罪について理解を深める。 | 平沢 |

## 5. 成績評価の方法・基準

学期末試験（筆記試験）を実施する。学期末の定期筆記試験の成績（50％）と課題レポートによる平常点（50％）を基準に総合的に評価する。平常点は、毎回の講義終了後に記してもらった課題レポートもしくは感想文の内容の濃淡や質問の鋭さ、誤字脱字の有無、受講態度・取り組み姿勢（積極性）、授業への貢献度をもとに評価する。

学期末試験の受験資格は、3分の2以上の出席をもって条件とする。定期試験の出題範囲および出題方法等については、事前に口頭で提示する。

課題レポートの詳細・メソッド・提出方法等は、講義内で提示する。

「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に5段階評価で採点する。なお、ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義冒頭で別途説明する。

## 6. テキスト・参考文献

テキスト：なし

参考文献：高橋哲夫（代表）『生徒指導の研究 第三版』教育出版, 2009年

## 7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

講義要旨のPDF版を事前に配信するので受講前に目を通しておき、さらには参考文献をはじめ本学図書館の蔵書などの当該部分にあたって予習（60分）する。また講義後、配布資料につき次週までに復習（90分）しておくこと。

## 8. 受講上の留意事項

常日頃から生徒指導に関係する時事報道に接することを心掛け、テレビニュースを積極的に視聴し、新聞報道のほか、ネットニュースにも敏感であってほしい。

現代社会（教育はもとより福祉の視点）への関心を深めてほしい。

遅刻や居眠りをしないよう自戒してほしい。

## 9. 課題に対するフィードバックの方法

講義中のレジュメ音読に誤りがあった場合は即、修正してフィードバックを与える。

毎回の講義終了後、講義内容に関する感想ないし質問を書いて電子メールで感想文を提出してもらう。

その小文の内容に対して講師がコメントする（誤字添削を含む）ので注視してほしい。

また学期末試験の終了後、履修学生全員に講評を与え、特に注意を喚起すべき事項（多かった誤答など）について指摘する場合がある。

## 10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

教職課程の必修科目であり、修得できない場合は免許状取得不可となる。

## 11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。